

生物生産学科

カリキュラム・マップ(2023年度入学適用)

ディプロマ・ポリシー

概要	生物生産学科は、日本および世界の農業を広く深く理解するとともに、農業に関わる高度な専門的知識を身につけ、生産環境、植物生産、動物生産および農業経営経済の分野において優れた基礎的・応用的能力を有する、広い視野に立つ人材を育成することを目標とする。生物生産学科は、この目標に基づき、以下の能力を身につけ目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当しい者として判定する。
観点(A)	多元的視野を持ち、生物生産学とそれに関連する領域の幅広い基礎学力・知識を身につけ、問題解決のための柔軟かつ論理的な思考力を有していること。
観点(B)	生物生産学に関する専門領域を理解し、高度な専門的知識を有するとともに、知識と論理的思考に裏付けられた応用力及び洞察力を有していること。
観点(C)	人類が直面する食料・農業・農村問題、持続的農業等の課題に対して、解決に向けての科学的な研究手法を身につけていること。
観点(D)	農林水産業および関連産業に高い関心と意欲をもち、高い倫理性をもってその発展に寄与する能力を有し、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力及び多様な環境に対する適応力・対人力を備えていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
教養科目	新入生科目	○			○
	グローバル教養科目	○	○		○
	グローバル言語文化科目				○
	グローバル展開科目		○	○	○
	スポーツ健康科学科目	○			○
学部共通専門基礎科目	数学	○			
	物理学	○			
	化学	○			
	生物学	○			
	地学	○			
	生物生産学原論	◎		○	
	情報処理・生物統計学		○		
学科共通科目	生化学	◎			○
	農業微生物学	◎			○
	農産物製造学	◎			○
	生物生産学英語入門	◎			○
	農業分野専攻実習		○		
	生物生産学実験基礎		○		
	アグリバイオ実験		○		
	学外実習(農家)			○	○
	学外実習(研究所)			○	○
	卒業論文	○	◎		
生産技術環境系科目	作物栽培学	○			
	土壌学	○			
	植物栄養・肥料学	○			
	土壌環境学	○			
	作物保護学	○			
	フィールド実験実習Ⅰ		○		
	フィールド実験実習Ⅱ		○		

◎と○がある場合は、◎は主たる関与であることを示す。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
植物生産系科目	植物生理学	○			
	植物分子遺伝学	○			
	植物生態生理学	○			
	作物学	○			
	園芸学Ⅰ	○			
園芸学Ⅱ	園芸学Ⅱ	○			
	植物育種学	○			
動物生産系科目	畜産学総論	○			
	農業昆虫学Ⅰ	○			
	家畜形態・生理学	○			
	農業昆虫学Ⅱ	○			
	家畜飼養学	○			
	家畜繁殖学	○			
	家畜育種・管理学	○			
	蚕糸学	○			
	昆虫利用学	○			
	家畜衛生学	○			
農業経営経済系科目	農業経済学	○			
	農業経営学	○			
	食料システム経済学	◎			○
	農業市場学	○			
	国際農業開発論	◎			○
	農業数量経済分析	○			
	農業資源経済学	◎			○
	農業経営経済学総合演習	○	○		
	農村社会調査実習			○	
	遺伝子細胞工学	◎			○
新領域科目	生物生産学特別講義Ⅰ()		○		
	生物生産学特別講義Ⅱ()		○		
	食料リスクアナリシス			○	
	天然物有機化学	◎			○
	有機合成化学	◎			○
微生物生化学	◎			○	
学部共通専門科目	○				

応用生物科学科

カリキュラム・マップ(2023年度入学適用)

ディプロマ・ポリシー

概要	応用生物科学科は、化学と生物学を基盤科学とし、分子、細胞、個体から生物集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を解明、応用、発展させることを目指した教育と研究を行い、バイオサイエンス、バイオテクノロジーの分野で活躍できる基礎と応用能力、さらには開発能力を備えた指導者となりうる人材を養成することを目標とする。 応用生物科学科は、この目標に基づき、以下の能力を身につけ目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当しい者として判定する。
観点(A)	多角的視野を持ち、応用生物学とそれに関連した領域の課題に取り組む基盤となる幅広い知識と教養を学び、柔軟かつ論理的な思考力を身につけていること。
観点(B)	生物のもつ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式を解明し、人類の持続可能な発展に貢献するために、応用生物学の基礎から先端にいたる専門的な知識およびそれに関連した科学を体系的に学習して理解し、論理的に思考して科学的事実を深く洞察する能力を身につけていること。
観点(C)	応用生物学の分野において不可欠な、化学と生物学を基盤とした実験技術を習得し、分子、細胞、個体から生物集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を理解するための分析力と考察力を身につけていること。
観点(D)	バイオサイエンス、バイオテクノロジー、食品、生命科学、植物保護等の研究を行うことによってそれらの発展に寄与するとともに、成果を発信するために必要なプレゼンテーション法や異なる文化の人をはじめ様々な人々と交流するためのコミュニケーション法を学習し、高い倫理性を持って社会に貢献することが期待できること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
教養科目	新入生科目	○			○
	グローバル教養科目	○	○		○
	グローバル言語文化科目				○
	グローバル展開科目		○	○	○
	スポーツ健康科学科目	○			○
学部共通専門基礎科目	数学	○			
	物理学(実験科目を除く)	○		○	
	化学(実験科目と有機化学を除く)	○		○	
	生物学(実験科目を除く)	○			
	地学(実験科目を除く)	○			
	物理学実験	○			
	化学実験			○	
	生物学実験			○	
	地学実験	○			
	学科専門科目	情報処理学		○	
有機化学Ⅰ			○		
生化学Ⅰ			○		
有機化学Ⅱ			○		
分子生物学			○		
植物生理学			○		
植物保護学			○		
有機化学Ⅲ			○		
生化学Ⅱ			○		
分析化学			○		
分子細胞生物学			○		
動物生理学			○		
有機合成化学			○		
微生物生化学			○		
天然物有機化学			○		
機器分析化学			○		
食品化学Ⅰ			○		
生物相関学		○			
バイオリジカルコントロール		○			
生体高分子化学		○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
学科専門科目	遺伝子工学		○		
	応用微生物学		○		
	食品化学Ⅱ		○		
	栄養化学		○		
	植物病理学		○		
	応用昆虫学		○		
	細胞工学		○		
	植物工学		○		
	食品工学		○		
	食品製造学		○		
	食品衛生学		○		
	農薬科学		○		
	生物統計学		○		
	国際展開力科目Ⅰ		◎		○
	国際展開力科目Ⅱ		◎		○
	科学英語論文演習Ⅰ		◎		○
	科学英語論文演習Ⅱ		◎		○
	農場実習		○		
	応用生物学共通実験Ⅰ			○	
	応用生物学共通実験Ⅱ			○	
	応用生物学専門実験Ⅰ			○	
	応用生物学専門実験Ⅱ			○	
	応用生物学専門実験Ⅲ			○	
	応用生物学専門実験Ⅳ			○	
応用生物学専門実験Ⅴ			○		
応用生物学専門実験Ⅵ			○		
卒業論文			○	◎	
専学部共通	共通科目	○			
	海外研修科目		○		◎
	国際農学科目	○			◎

◎と○がある場合は、◎は主たる関与であることを示す。

環境資源科学科

カリキュラム・マップ(2023年度入学適用)

ディプロマ・ポリシー

概要	環境資源科学科では、生物学・物理学・化学および地学の基礎知識を土台に、地球環境とバイオマスに関する優れた基礎的・応用的能力を有する、広い視野に立つ人材を育成することを目標とする。 環境資源科学科は、この目標に基づき、以下の能力を身につけ目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当しい者として判定する。
観点(A)	環境や資源問題を多角的に理解するために必要な自然科学の基礎知識を身につけていること。
観点(B)	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題に関わる世界水準の自然科学研究を理解でき、科学的に思考する力を有するとともに、知識と論理的思考に裏付けられた応用力及び洞察力を有していること。
観点(C)	環境と資源の科学に必要な基礎的技能・技術を習得していること。
観点(D)	環境資源問題に関わる幅広い見識および高い倫理性をもち、異なる文化の人々ともコミュニケーションできる力及び多様な環境に対する適応力・対人力を備えていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
教養科目	新入生科目	○			○
	グローバル教養科目	○	○		○
	グローバル言語文化科目				○
	グローバル展開科目		○	○	○
	スポーツ健康科学科目	○			○
学部共通専門基礎科目	数学	○			
	物理学	○			
	化学	○			
	生物学	○			
	地学	○			
	情報処理学			○	
	地球化学	○			
	生態系管理学	○			
	環境資源科学実習A			○	
	環境分析化学	○			
学科基礎科目	環境計測学	○			
	環境資源熱力学	○			
	森林資源科学	○			
	環境資源科学実習B			○	
	物質生化学	○			
	資源材料力学	○			
	代謝生化学	○			
	機器分析学I	○			
	水溶液化学	○			
	資源高分子物理学	○			
	環境資源有機化学	○			
	木質資源物理学	○			
	樹木生態生理学	○			
	微生物生理生態学	○			
	森林実習			○	
	機器分析学II	○			
	環境情報解析学	○			
	環境気候学	○			
	化学結合論	○			
	環境資源科学実験I (物理学応用)			○	
環境資源科学実験II (化学応用)			○		
環境資源科学実験III (生物学応用)			○		
環境資源科学実験IV (地学)			○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
学科専門科目	住環境学	○	◎		
	資源リサイクル学	○	◎		
	地圏環境学	○	◎		
	大気環境学	○	◎		
	海洋環境学	○	◎		
	大気化学	○	◎		
	木質資源化学	○	◎		
	陸水環境学	○	◎		
	環境毒性学	○	◎		
	資源高分子化学	○	◎		
	植物組織形態制御学	○	◎		
	エコマテリアル学	○	◎		
	環境土壌学	○	◎		
	環境汚染化学	○	◎		
	環境微生物学	○	◎		
	生態系生態学	○	◎		
	生分解学	○	◎		
	森林資源利用学	○	◎		
	森林資源形成学	○	◎		
	環境植物学	○	◎		
	紙パルプ科学	○	◎		
	住環境構造学	○	◎		
	ライフサイクルアセスメント		○		
	資源分解・廃棄学	○	◎		
	森林・林業論		○		
	環境分子生物学	○	◎		
	環境アセスメント学		○		
	環境資源科学特別講義I	○	◎		
	環境資源科学特別講義II	○	◎		
	環境資源科学特別講義III	○	◎		
	環境資源科学特別講義IV	○	◎		
	科学英語論文講読	○	○		○
	卒業論文	○	○	○	○

◎と○がある場合は◎は主たる関与であることを示す。

地域生態システム学科

カリキュラム・マップ(2023年度入学適用)

ディプロマ・ポリシー

概要	地域生態システム学科は、森林・農村・都市を連続した「地域」と捉え、その「地域」における自然科学及び人文社会科学協働の地域分析・管理・計画に関する知識を身につけ、問題解決型の有能な人材を育成することを目標とする。この目標に基づき、以下の能力を身につけ目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当する者として判定する。
観点(A)	環境・食料生産・社会に関わる諸課題を多角的に理解できる幅広い基礎学力を身につけるとともに、柔軟かつ論理的な思考力を有していること。
観点(B)	自然科学及び人文社会科学協働の地域分析・管理・計画に関する専門的知識をもち、その知識に裏付けられた地域課題の解決力を身につけていること。
観点(C)	地域が直面する環境・食料生産・社会に関わる諸課題に対して、科学的に解決できる能力を身につけていること。
観点(D)	異なる文化の人々と円滑にコミュニケーションができる能力を持ち、農林水産業およびその関連産業の意義と重要性を理解し、高い倫理性を備えていること。

区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
教養科目	新入生科目	○			○	
	グローバル教養科目	○	○		○	
	グローバル言語文化科目				○	
	グローバル展開科目		○	○	○	
	スポーツ健康科学科目	○			○	
学部共通専門基礎科目	数学	○				
	物理学	○				
	化学	○				
	生物学	○				
	地学	○				
	地域生態システム学Ⅰ	○				
	地域生態システム学Ⅱ	○				
学科共通科目	地域生態システム学Ⅲ	○				
	地域生態システム学実習Ⅰ	○			○	
	地域生態システム学実習Ⅱ	○			○	
	地域生態システム学セミナー	○				
	地域生態システム学特別演習Ⅰ		○			
	地域生態システム学特別演習Ⅱ			○		
	地域生態システム学特別演習Ⅲ				○	
	フィールド安全管理学		○			
	情報処理学		○			
	インターンシップ			○		
	卒業論文	○	○	○	◎	
	バツケージ科目・推奨科目	生物多様性保全学	○			
		水資源管理論	○			
地域社会システム計画論		◎	○	○		
人と動物の関係論		◎	○	○		
動物福祉論		◎	○	○		
地域社会調査法		◎	○	○		
森林生態学		◎	○			
環境哲学		◎	○	○		
測量学		◎	○			

◎と○がある場合は◎は主たる関与であることを示す。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
バツケージ科目・推奨科目	自然誌学	◎	○		
	水文学	◎	○	○	
	環境土壌物理学	◎	○		
	農業経済学	◎	○		
	動物生態学	◎	○	○	
	共生福祉論	◎	○	○	
	環境生理生態学	◎	○	○	
	野生動物保全学	◎	○	○	
	森林計画学	◎	○		
	空間情報学	◎	○		
	土壌生態管理学	◎	○		
	山地保全学	◎	○	○	
	森林生産システム学	◎	○		○
	GISの基礎と演習	◎	○		
	樹木学	○	◎		
	力学Ⅰ	◎	○		
	土質力学	◎	○		
	水理学	◎	○		
	農村地域計画学	◎	○	○	
	農業技術論	◎	○		
	応用解析・情報学	◎	○	○	
	環境文化史	◎	○	○	
	環境公法	◎	○	○	
	環境経済学	◎	○	○	
	農業経営学	◎	○		
	造園学	◎	○	○	
	比較心理学	◎	○	○	
	比較行動学	◎	○	○	
	農村社会論	◎	○	○	
	健康アメニティ論	◎	○	○	
	景観生態学	◎	○	○	
	動物環境生理学	◎	○		
	リモートセンシング論	◎	○		
森林施設工学	◎	○			
砂防工学	◎	○	○		
力学Ⅱ	◎	○	○		
環境地盤工学	◎	○			
生物生産環境学	◎	○			
農用原動機学	◎	○			
熱工学	◎	○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
パ ツ ケ ー ジ 科 目 ・ 推 奨 科 目	農業環境物理学	◎	○	○	
	環境教育学	◎	○	○	
	国際協力論	◎	○	○	
	農業市場学	◎	○		
	生態水理学	◎	○	○	
	森林施業論	◎	○		
	森林立地学	◎	○		
	農地環境工学	◎	○		
	環境倫理学	◎	○	○	
	野生動物管理技術論	◎	○	○	
	植生管理学	◎	○	○	
	森林保護学	◎	○		
	森林政策学	◎	○	○	○
	木質資源利用学	◎	○		
	農産プロセス工学	◎	○		
	灌漑排水工学	◎	○		
	共生社会思想	◎	○	○	
	国際農林開発論	◎	○	○	
	ライフサイクルアセスメント	◎	○		
	環境アセスメント学	◎	○		
持続的森林管理論	◎	○	○		
作物栽培学	◎	○			
実 験 ・ 実 習 科 目	基礎測量学実習	○	◎		○
	地域社会システム調査実習	○	◎		○
	自然体験活動実習	○	◎		○
	植生管理学実習	○	◎		○
	森林計画学実習	○	◎		○
	山地測量学実習	○	◎		○
	空間情報学実習	○	◎		○
	育林学実習	○	◎		○
	山地保全・砂防計画学実習	○	◎		○
	樹木学実習	○	◎		○
	農業環境工学実験	○	◎		○
	農業環境工学実習	○	◎		○
	農村地域計画学演習	○	◎		○
	野生動物保全学実習	○	◎		○
	比較行動学実験・実習	○	◎		○
	森林保護・樹木医学実習	○	◎		○
	森林土壌学実験・実習	○	◎		○
	森林生産システム学実習	○	◎		○
	農業環境工学演習	○	◎		○
	農業環境工学設計	○	◎		○
学部共通専門科目			○		

共同獣医学科

カリキュラム・マップ(2023年度入学適用)

ディプロマ・ポリシー

概要	獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目標としており、以下の能力を身につけ、目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当しい者として判定する。
観点(A)	多角的な視野を持つ獣医師となるべく、幅広い教養基礎学力を養い、論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つこと。
観点(B)	獣医師に必要な高度な専門的知識を持つとともに、それらを様々な分野に応用可能な思考力と洞察力を持つこと。
観点(C)	獣医学を基礎とした研究手法や解析方法を身につけ、高い技術と実行力に裏付けされた問題解決能力を持つこと。
観点(D)	世界レベルの問題に対処するため、多様な環境に対応できる適応力と対人力、国内外で活躍できるコミュニケーション力を醸成すること。

科目区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
共通教育科目	大学教育導入	○				
	スポーツ健康	○				
	外国語	○				
	人文社会科学	○				
	理数系基礎	○				
	外国語アドバンス	○				
	持続可能な環境・社会	○				
	理数系アドバンス	○				
	日本語科目				○	
	日本事情科目				○	
	基礎獣医学科目	獣医学概論	○			
		獣医倫理	○			
獣医事法規		○				
運動器・神経系解剖学			○			
内臓・脈管系解剖学			○			
解剖学実習				○		
組織学			○			
組織学実習				○		
発生学		○				
統合生理学			○			
器官制御生理学			○			
内分泌学			○			
生理学実習				○		
獣医遺伝育種学		○				
動物行動学			○			
実験動物学			○			
実験動物学実習				○		
基礎放射線学			○			
獣医基礎生化学		○				
獣医代謝生化学			○			
生化学実習				○		
基礎薬理学			○			
統合薬理学			○			
薬理学実習				○		
病態獣医学科目		微生物学総論		○		
		病原微生物学		○		
		微生物学実習 I			○	
		微生物学実習 II			○	
	免疫学		○			
	原虫・原虫病学		○			
	蠕虫・蠕虫病・衛生動物学		○			
	寄生虫学実習			○		

専門教育科目

科目区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
基礎獣医学科目	動物感染症学		○			
	家禽疾病学		○			
	魚病学		○			
	動物病理学総論		○			
	動物病理学各論A(主要臓器)		○			
	動物病理学各論B(他臓器・組織)		○			
	病理学実習 I			○		
	病理学実習 II			○		
	公衆衛生学総論		○			
	疫学		○			
	人獣共通感染症学		○			
	環境衛生学		○			
応用獣医学科目	公衆衛生学実習			○		
	毒性学		○			
	毒性学実習			○		
	動物衛生学		○			
	動物衛生学実習			○		
	野生動物学		○			
	食品衛生学		○			
	食品衛生学実習			○		
	公衆衛生実践実習				○	
	専門教育科目	内科学総論		○		
		呼吸器病・循環器病学		○		
		消化器病学		○		
外科学総論			○			
麻酔学・手術学			○			
軟部外科学			○			
小動物内科学実習・基礎編				○		
小動物内科学実習・応用編					○	
小動物外科学実習・基礎編				○		
小動物外科学実習・応用編					○	
内分泌病・皮膚病学			○			
代謝病・中毒学			○			
血液免疫病学			○			
神経病・運動器病学			○			
泌尿器病・生殖器病学			○			
臨床病理学			○			
臨床薬理学			○			
臨床腫瘍学			○			
臨床栄養学			○			
画像診断学			○			
画像診断実習				○		
眼科学			○			
動物行動治療学			○			
総合参加型臨床実習 I					○	
総合参加型臨床実習 II					○	
総合参加型臨床実習 III					○	
総合参加型臨床実習 IV					○	

科目区分		授業科目	観点			
			A	B	C	D
専門教育科目	実証獣医学科目	大動物臨床獣医学科目				
		繁殖機能制御学		○		
		臨床繁殖学		○		
		繁殖機能制御学実習			○	
		臨床繁殖学実習			○	
		産業動物臨床学Ⅰ		○		
		産業動物臨床学Ⅱ		○		
		馬臨床学		○		
		大動物臨床実習・基礎編			○	
		大動物臨床実習・応用編				○
	総合参加型臨床実習Ⅴ				○	
	総合参加型臨床実習Ⅵ				○	
	選択科目	インターンシップ				○
		海外実習				○
		人と動物関係学		○		
		動物品種論		○		
		食品安全管理学		○		
		動物園動物学		○		
		国際感染症制御学		○		
	動物病院経営学		○			
専修科目	獣医学演習				○	
	卒業研究				○	